

# かんちゃん通信

令和元年 11月15日(金)発行 文責：林 寛

## ～芋ほり～

11月8日(金)に、年長さんが芋ほりをしました。私はその日、熊本に出張だったため、残念ながらその様子を見ることができませんでした。

昨年度はとても芋が少なく、また収穫できたとしても小さな芋が多かったため、今年も私も畑の整備から関わっていました。そのため収穫量や結果についてはとても気になっていたのです。熊本での大事な会議中も芋のことが気になって、話が入ってこなかったほどです。

結果は・・・、豊作でした。サイズのいい芋が多く獲れており、子どもたちも大喜びだと年長担任から報告を受けました。つくづくその場にいたかったと思いました。

今年変更した点は次のことです。

- ・ 畑に牛糞(肥料)をまいた。
- ・ 附小から小型の耕運機を借りてきて畑の土を耕し、土を柔らかくすると同時に牛糞をしっかりと土に混ぜ込んだ。
- ・ 植える時期を約1ヶ月早めた。
- ・ 夏場の雑草取りや、つる返し等の作業を行った。

昨年度に比べると、結構手をかけたのですが、その分、芋はしっかり成長しました。これは、子育てにも同じことが言えると思います。

適切な時期に適切な支援(作業)を行うと、植物はしっかり根を張り成長していきます。子どもたちにも、幼い時ほど、親や教師がしっかり見て、適切な援助を行っていくことが大切なのだと思います。

収穫した芋は、後日、どうやって食べるかは、年長さんが相談して決めます。年長さんは「お芋パーティー」として行い、年中さんや年少さんに芋を運んだりします。年長さんたちはとても楽しみにしています。

余談ですが、芋ほりをして綺麗になった畑に、年少さんがやってきて、ほり残しの芋がないか探していました。実は、実際に数個あったのですが、それを藤本副学部長さんとイモ博士の鎌田先生が朝からやって来て、掘ってくれて、見つけやすいようにしてくれていました。

昨日、うめ組の子ども数名が、興奮して職員室に入ってきました「園長先生いますか



一、芋がありました!!!」「どこにあったと?」「畑! まだあるから手伝って!」「よし行こう!」と、みんなで畑に行くと、すでに何人かの子どもが苦戦苦闘しているではありませんか。絵本の「大きなかぶ」のフレーズを使って、みんなで協力して「うんとこしょ! どっこいしょ!」と言いながら引っ張りました。

ちなみに、先頭の子どもが持っているのは、木の根っこでした。